２０21年　１　月　29　日　　担当　小松

21年の石油需要、ワクチンと経済回復で拡大＝ウッド・マッケンジー

シンガポール　２８日　ロイター］ - コンサルティング会社ウッド・マッケンジーは２８日、今年の世界の石油需要について、迅速なワクチン配布と経済見通しの改善で約７％拡大するとの見通しを示した。

液体油の平均需要は日量９６７０万バレルと、新型コロナ感染症の流行で打撃を受けた去年の水準から６３０万バレル増加する見込み。

同社のバイスプレジデント、アンルイーズ・ヒトル氏（訂正）は「今年はワクチン配布が加速し、世界経済の成長率は去年のマイナス５．４％からプラス５％への改善が予想されている」と指摘。

「世界的な液体油の需要回復ペースは、ワクチン配布および世界経済回復のペースと強さ次第になる」と述べた。

供給については、石油輸出国機構（ＯＰＥＣ）と主要産油国による生産協議にも不透明感が残ると指摘。一定の生産制限は必要だが、需要の回復とともに順守が難しくなるとの見方を示した。

ウメモト インフォメーション

２０２１年　１月　29　日　　担当　椎野

菜種、13年ぶり高値
国際価格、中国で需要堅調

菜種の国際価格が上昇した。指標のウィニペグ先物（期近）の27日終値は1トン717.80カナダドルと2020年2月下旬の安値から6割上昇、約13年ぶりの高値をつけた。

食用油で競合する大豆油やパーム油の先物相場が上昇したことを受けて、菜種も買いが進んだ。最大の植物油消費国である中国では、大豆油やパーム油に加えて菜種油の需要も堅調だ。「健康志向が広がっていることも追い風」（商品先物会社）

最大の輸出国であるカナダの20～21年度の生産量は、天候不順の影響を受けて1872万トンと前年度に比べて4.5%減少する見通し。需給の引き締まりが意識されている。

世界的に燃料分野でバイオシフトが進んでいることも強材料だ。「トウモロコシや大豆、パーム油、菜種などバイオ燃料の原料の相場は高値で推移する可能性がある」（フジトミの斎藤和彦チーフアナリスト）との指摘がある。

引用記事　日経新聞　ロイター通信　化学工業日報　燃料油脂新聞

ウメモト インフォメーション

２０２１年　１月　29　日　　担当　坂田

物流効率化のカギは連結トラック　極東開発など全集中　　1/2

けん引車の貨物積載部を指す「トレーラー」の開発に自動車関連企業が力を入れ始めた。極東開発工業はトレーラーのブレーキ温度を検知して、火災を防ぐサービスを2021年度に始める。新明和工業も位置情報をリアルタイムで把握し、運送会社に配信する。人手不足を背景に、トレーラーを活用した「連結トラック」としての活用法が急速に高まっている。

全長は最大で25メートル

連結トラックとはけん引車に2両のトレーラーをつなげた車両を指す。これまでの大型トラックは全長が12メートル程度だが、連結トラックは最大で25メートルに及ぶこともある。運転手1人で2台分の荷物を運べる格好だ。19年の規制緩和により走行できる区間が、北は東北自動車道から南は九州自動車道まで拡大した。

トレーラーで国内首位の極東開発工業は21年度までに、トレーラーのブレーキ温度を監視するサービスを始める。車軸に付けたセンサーでブレーキの稼働頻度を検知し、温度を予測する仕組みだ。火災の恐れがあれば、けん引車の運転席のランプを点灯させて運転手に危険性を知らせる。

子会社の日本トレクス（愛知県豊川市）の中川友市執行役員は「大型の連結トラックが火災を起こせば影響は大きい。貨物の損害リスクを抑えたい運送会社の関心が高い」と説明する。新製品に標準搭載し、他社との違いを打ち出す計画だ。

同社は2019年度に愛知県豊川市で数千万円をかけて新工場を設立し、本社工場からトラックの改装設備を一部移転した。これにより余裕ができた本社工場では、連結トラック用トレーラーの生産を増強している。22年までに全長24～25メートルの連結トラック用トレーラーの生産能力を月10台へと倍増させる計画だ。

これに対して国内2位の新明和工業は運送会社がトレーラーを遠隔で監視できるサービスを数年内に始める方針。後部に全地球測位システム（GPS）機器を取り付け、トレーラーの位置をリアルタイムで把握する。

連結トラックは今後、中継地点でトレーラーをけん引車から切り離し、別のけん引車に移し替えるような利用法も増える見通し。車両管理やスムーズな移し替えのためには位置情報が重要な役割を担う。

サービスは有料で提供する方針で、受注拡大にもつなげる。21年度の連結トラック用トレーラー受注数は20台と前年度比で倍増を目指す。

これからの物流効率化でカギを握ると期待されるのが「ドリー式」と呼ばれるトレーラーだ。1両目と2両目の連結部分を脱着できることが特徴。連結トラックの2両目のトレーラーを別のけん引車につなぎ直し、1両編成のトラックのように運用できる。運用の幅を大きく広げられる。～続く～

日経新聞　ロイター通信　化学工業日報　燃料油脂新聞　環境ビジネス

ウメモト　インフォメーション

２０２１年　１月　29　日　　担当　坂田

物流効率化のカギは連結トラック　極東開発など全集中　　2/2

　日本トレクスの中川氏は「今後は別々の会社が持つ複数のトレーラーを連結トラックで共同輸送するといった運用が可能だ」と将来像を語る。

配送拠点同士を結ぶ長距離輸送は連結トラックが担い、拠点から顧客へはトレーラーを別々のけん引車に移し替えて運ぶという構想だ。各社が運転手を雇い、自社の荷物だけを運ぶ場合に比べて車両数を抑えられる。

このほかアサヒ飲料と日清食品は関東と九州の間で、それぞれの製品を日通のトラックに混載して輸送を始めた。人手不足を背景に、共同輸送は今後も広がるだろう。

普及に技術と規制の壁

様々な期待を集める連結トラックだが、普及に向けては課題も多い。トレーラーを切り離す作業や車両の後退・旋回といった運転には熟練の技術が必要で、現状では非常に限られた運転手しか運用できない。それもあって全長24～25メートルの連結トラックの販売台数は年間数十台にとどまる。

「規制の壁」もある。連結トラックは一般的なトラックの約2倍にあたる体積の荷物を積めるが、積載できる重量はトラックの約1.7倍である23トン程度と定められている。重い車両が道路や橋を何度も通ると老朽化の原因になるためだ。この規制を緩和して走行区間を広げるには、橋の補強などインフラ投資が必要になる可能性もある。

駐車場などの環境整備も欠かせない。連結トラックは専用の大型駐車場が必要だが、連結トラックの運転手が利用しようとしても、一般のトラックが無断で利用していることが多いという。「運転手の9割が専用駐車場を利用できていない」との調査結果もある。

物流の効率化では連結トラック以外に日野自動車やいすゞ自動車などが複数のトラックに隊列を組ませ、高速道路を走る実証実験を進めている。将来は後続車を無人化する構想だ。これには高度な自動運転技術が必要で、実現にはまだ一定の時間がかかる。トレーラー各社は連結トラックを「当面の物流効率化で現実的な解決策」と位置づけ、運送会社へ積極的に提案していく構えだ。

連結トラックは1台でトラック2台分の荷物を運べる

大型の連結トラックは連結部を脱着し、1両編成の「トラック」としても運用できる

日経新聞　ロイター通信　化学工業日報　燃料油脂新聞　環境ビジネス

ウメモト　インフォメーション

２０２１年　１月　29　日　　担当　坂田

発電用C重油、15%上げ　　ENEOS1～3月、需要増も反映

石油元売り大手ENEOSは発電用C重油の1～3月期の価格を2四半期ぶりに引き上げると表明した。低硫黄C重油（硫黄分0.3%）は前期（2020年10～12月）比6220円（15%）高い1キロリットル4万8080円とする。原油価格の上昇や発電需要の高まりで低硫黄重油の海外市況が上向いたことを加味して大幅値上げとなった。

12月からの原油相場などを参考にした。産油国の協調減産や新型コロナウイルスのワクチン普及で需給が改善するとの見方から値上がりした。

低硫黄重油の引き合いが強まったことも影響した。寒波で発電需要が増加し、液化天然ガス（LNG）の需給が逼迫。日本や韓国で代替燃料としての重油の消費が増え、アジア市場では12月以降に2割近く値上がりした。

産業用ボイラー燃料として使う高硫黄C重油（硫黄分3.0%）は前期比5200円（15%）高の同3万9750円を提示した。引き上げは3四半期連続。3月下旬までの決着を目指し、製紙会社と交渉する。

日経新聞　ロイター通信　化学工業日報　燃料油脂新聞　環境ビジネス